

## 大阪府の博物館施設「見直し」に対する要望書

橋下徹大阪府知事は、大阪府の財政再建のため、大阪府立の施設八三のうち中之島図書館と中央図書館以外の施設は不要との見解を示し、本年六月までに検証を行い、必要性のないものは廃止・売却を進める意向とのこと。そこには弥生文化博物館、近つ飛鳥博物館、狭山池博物館、泉北考古資料館などが含まれています。二〇〇八年七月までの新年度暫定予算では、人件費と維持管理費以外は計上されず、春季特別展が中止に追い込まれる事態が既に生じております。

弥生文化博物館や近つ飛鳥博物館あるいは狭山池博物館は、弥生時代や古墳時代あるいは土木開発の歴史に関する専門館として、泉北考古資料館は重要文化財である陶器窯跡群出土資料の公開施設として、いずれも他にはない独自色を発揮し、これまで全国的に評価の高い先端的な活動を進め、生涯学習施設としての役割を果たしてきました。特別展企画を通して全国に研究成果を発信するとともに、講演会や各種の講座等を開催するなど、府民に質の高い生涯学習サービスを提供し、また学校教育との連携を進めてきました。さらに各種のイベントを通して、地域の文化的活動にも貢献しています。

歴史や文化・文化財は、いまを生きるわれわれにとって様々な価値や意義を有し、また未来の人々へ受け継がれていくべきものです。こうした公益性ゆえに、歴史を大切にし伝統的文化や文化財を保護すること、公立博物館を通じて教育活動を行うことは、地方公共団体の役割として位置づけられています。行政が責任をもって継続していく必要があります。大阪府がその役割を放棄することは許されません。

大阪は奈良や京都とともに古代以来日本史上重要な役割を果たしてきた地域であり、江戸時代には大都市として発展を遂げ上方文化を育んできました。世界遺産登録をめざす巨大な王陵、古代の難波宮、中世の自治都市堺、近世の大坂城と城下町など、日本を代表する歴史遺産が数多く残っています。大阪の歴史が生み出した数々の文化財や独特の文化は、大阪が有するかけがえのない魅力です。この魅力を積極的に打ち出し、個性豊かな現代大阪を創造することが、多くの人々を惹きつけることになり、大阪の活性化にもつながると考えます。大阪府は歴史と文化の活用に一層重点的に取り組むべきであり、博物館施設はそのための重要な役割を担っています。

大阪府の博物館施設は、これまでの限られた予算の中で、資料の収集や調査・研究を進め、展示等による社会教育活動を実施し、学校教育との連携にも尽力してきました。それゆえこれらの施設は子供や高齢者を含めた多くの府民に利用されており、また府内外から広い支持を集めています。博物館の培ってきた実績や力量は容易に代替できるものではなく、これまでの蓄積をふまえて博物館の機能をさらに活かしていく方法を考えるべきです。これらを手放したり、行政の責務の外に置くことになれば、大阪府民にとって取り返しのつかない損失となることでしょう。また大阪府の姿勢や判断は、府下の市町村のみならず全国的に悪影響をもたらすことは明らかです。そもそも、こうした重大な影響をお

よぼす「見直し」が、知事主導で短期間で一方的に進められることに危惧を抱かざるをえません。

以上の見地から、大阪府の博物館施設についての今次の「見直し」において、廃止や売却あるいは事業の縮小を進めることに反対し、以下の点を要望します。

## 記

- 一、大阪府の博物館施設を、大阪府の運営責任のもとに存続させ事業を継続すること。
- 二、「見直し」にあたっては、有識者からなる諮問機関を設け判断を仰ぐとともに、博物館の果たしてきた役割を正當に評価し、教育委員会や博物館職員の見解や、利用者である府民や研究者の意見を尊重すること。

二〇〇八年三月六日

大阪府知事 橋下 徹 殿  
大阪府教育長 梶山 哲男 殿  
大阪府議会議長 岩見 星光 殿

大山 喬平 (京都大学名誉教授)  
小野山 節 (京都大学名誉教授)  
北野 耕平 (神戸商船大学名誉教授)  
柴原 永遠男 (大阪市立大学教授)  
高橋 隆博 (関西大学博物館長・  
関西大学教授)  
高橋 昌明 (神戸大学教授)  
都出 比呂志 (大阪大学名誉教授)  
直木 孝次郎 (大阪市立大学名誉教授)  
中村 博司 (大阪城天守閣前館長)  
広川 禎秀 (大阪市立大学名誉教授)  
三輪 泰史 (大阪教育大学教授)  
藪田 貫 (関西大学教授)  
吉田 晶 (岡山大学名誉教授)  
和田 晴吾 (立命館大学教授)

大阪歴史学会  
大阪歴史科学協議会  
古代学研究会  
日本史研究会  
歴史科学協議会